

## ⑥【ボランティア活動リーダー養成研修会（企業篇）】

日 時：平成 30 年 2 月 7 日（水）13:30～16:00  
会 場：とちぎ福祉プラザ  
主 催：栃木県社会福祉協議会  
内 容：企業と地域・NPO を繋げる支援体制  
対 象：企業（経済団体を含む）担当者、その他企業の社会貢献活動に関心のある方（参加9名）

## （3）若年層の社会参加を促進する方策の検討

- ① 若年層の社会参加について、関連情報の収集や意見交換、また他センターの事業等への参加を通じて、参加促進策として必要な要素を以下のように検討した。
    - ア 若者それぞれの成長に合わせた参加促進プログラム（高校生、大学生、若年社会人等）
    - イ 適切なボランティアプログラムとそれに関わるコーディネーター
    - ウ 若者同士はもとより、地域社会にて活動する大人と本音で語れる交流の場
    - エ 若者のもつチャレンジ精神、若者らしい発想（アイデア）を実践に移すまでの伴走
    - オ 社会参加の体験をもった若者が、年下の若者をリードできる体制の定着
  - ② その他
    - ・インターン生研修
- 日 時：平成 29 年 8 月 23 日（水）13:00～14:30  
会 場：ぼ・ぼ・ら 交流広場～館内  
内 容：ぼ・ぼ・らについて・ボランティアについての研修  
対象：栃木県県民協働推進室配属インターン研修生 4 名

## （4）N P O 、企業、行政の協働に関する調査研究

### ①株式会社マルハ×N P O 法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ（ナルク栃木）

取材日：平成 29 年 5 月 17 日（水）13:30～14:30

内 容：オフィス・ビル清掃を専門とする「株式会社マルハ」と、高齢者介助や子育て支援等を行っている「N P O 法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ（ナルク栃木）」が、協働により個人宅の清掃事業を開始した。「株式会社マルハ」職員が、「ナルク栃木」の家事支援コーディネーターと個人宅を訪問し、両者が一緒に、日ごろ手の行き届かない玄関床清掃等を実施した。企業側にとっては専門性を活かしビジネスチャンスにつながるとともに、企業のイメージアップにもなり、NPO 側にとっては活動内容の充実になり、受益者にも好評を得た。



### ②株式会社 S & Y ×ひゅーまにあ宇都宮

取材日：平成 29 年 5 月 30 日（火）11:00～12:00

内 容：平成 28 年度栃木県事業「企業と NPO 等との協働対話フォーラム」において、障がい者の就労の実習先を探していた「ひゅーまにあ宇都宮」が、インド料理専門店ギタンゾリマハールを経営している「株式会社 S & Y 」と出会い、店舗の清掃実習を 2 週間に一度実施することとなった。協働によって、障がい者の実習先の確保とともに、店舗が綺麗になり、イメージアップになるなど、お互いにメリットが生まれている。



**③成果と課題**：①の取組みは、「株式会社マルハ」が「ぼ・ぼ・ら」に協働に関する相談をもちかけて実施に至った。「ぼ・ぼ・ら」スタッフを含む3者で数回の話し合いをもち、コーディネーターの役割として、双方の得意分野やできること等をお互いに出し合い、どんな取組ができるかを引き出した。活動開始の際も現場に足を運び、第3者の立場で無理なく継続できるよう助言した。今後も継続予定である。

②の取組みは、県事業をきっかけに2者がつながり、実施に至った。お互いに「障がい者」にとってのメリットを中心に事業を組み立てており、今後も継続予定である。以上のことから、今後に向けての課題及び方策を次のように整理した。

- ・双方の組織としてのメリット、関係者及び社会への影響を勘案する。
- ・協働をコーディネートする際に必要な視点について、整理する。
- ・身近な事例の収集・分析等を実施し、適宜提供していく。
- ・協働をテーマとした学びの場、出会いの場を創出する。
- ・協働について啓発するとともに、中間支援センターの存在と役割を広くPRする。

## (5) コミュニティづくりに関する調査研究

### ①栃木県主催「地域づくりスキルアップ講座」への参加

日 時：平成 30 年 2 月 13 日（土）13:00～16:00

会 場：栃木県庁本館9階 会議室3

主 催：栃木県、運営協力：NPO 法人とちぎユースサポートーズネットワーク

テマ：「地域社会を変えるファンドレイジング」

講 師：ファンドレイジングラボ代表・日本ファンドレイジング協会理事 徳永洋子氏

参加者：約 20 名

内 容：非営利団体の資金調達である「ファンドレイジング」の重要な点は、①夢の実現に必要なものは、計画・仲間・資源。ファンドレイジングは、夢をかなえる資金の調達。②寄附集めのポイントは、寄附者の気持ちになること。寄附者が心搖さぶられることが必要。また、寄附の方法がすぐに分かり簡便であること。③組織の安定性と持続性のため、資金を生む仕組みを作つておくことが大切。④助成金は消費ではなく、投資するもの。助成機関にとっては、自ら行うのではなく、専門性のある団体に資金を託して（＝投資して）社会を変えていくのが、ミッション。



成果と課題：非営利団体の活動継続や発展のためには、役職員一人ひとりが、常にファンドレイジングの重要性を認識し、戦略的に事業収入確保に動く必要がある。寄附や助成金制度の活用は重要な手法であるが、栃木県においては、まだ認知度が低いと思われる。

今後、「地域社会を良くするための寄附」という認識をさらに広めることや、非営利団体が助成金制度に積極的にチャレンジできるよう、研修会の開催やSNS等による情報発信などにより、支援協力していく必要がある。

### ②「高根沢町における地域資源の活用」に関する調査研究

日 時：平成 29 年 8 月 10 日（木）上組・下組

平成 30 年 2 月 25 日（日）中組

場 所：高根沢町宝積寺地区

内 容：文化財調査の専門家から、高根沢町宝積寺地区が保有する貴重な歴史資源である祭り屋台の活用検討に係る調査依頼を受け、地元住民との仲介をして調査に同行した。上組・中組・下組という3地域、3台の屋台の状況を調査した。



屋台は、江戸時代に製作されたものと推定され、町の文化財指定を受けている歴史的資源である。かつては鬼怒川の船祭りに使われ、町内を練り歩く屋台巡行が行われていたが、国道の整備、交通量の増加等に伴い、徐々に屋台巡行は行われなくなり、祭りも衰退してしまった。現在は高齢化が進み、若者が減少し、屋台の曳き手がいない状況で、屋台は、約30年間倉庫の中に保存され眠っている状況。

**成果と課題**：本調査結果を、栃木県コミュニティ協会主催研修事業ワークショップにおいて、地域の祭りの継承・復活が困難になっている事例の一つとして紹介した。歴史ある祭り屋台の活用については、まずは、地元での課題意識や解決意欲の高まりが重要であるため、調査結果を地元に伝え、ニーズに応じて支援協力していきたい。

## (6) 運営スタッフの県内外研修

運営スタッフの資質向上を図るため、業務に関連する県内外の各種研修を受講した。

期 日	研修先<用務先>	主 催	受講人数 (名)
29/5/22	栃木県コミュニティ協会研修会	栃木県コミュニティ協会	7
5/26.27	災害時の連携を考える全国フォーラム	NPO 法人全国災害ボランティア団体支援ネットワーク	1
6/23	平成 29 年度生活学校・生活会議運動全国大会	(公財) あしたの日本を創る協会	1
7/18	NPO と行政の対話フォーラム'17	認定 NPO 法人日本 NPO センター	1
7/29	中間支援組織スタッフのための支援力アップ塾	東京ボランティア・市民活動センター	1
9/2	「知事と語ろう！とちぎ元気フォーラム青年版」	栃木県	2
9/3	学生×地域づくり実践事例発表会	栃木県	1
9/12	平成 29 年度コミュニティ研修会	栃木県コミュニティ協会	1
11/30 12/1	第 11 回全国校区・小地域福祉サミット in NIKKO	第 11 回全国校区・小地域福祉サミット in NIKKO 実行委員会、社会福祉法人日光市社会福祉協議会	2
12/18	災害ボランティアセンター運営研修	社会福祉法人栃木県社会福祉協議会	1
12/21	平成 29 年度ボランティアコーディネーションセミナー	社会福祉法人栃木県社会福祉協議会	1
30/2/3	コミュニティボランティア体験事業 2017 報告会	栃木県	3
2/10	地域づくりスキルアップ講座「地域社会を変えるファンドレイジング」	栃木県	1
2/17	サシバの里のまちづくり	まちづくり なすから塾	1
3/3.4	JVCC2018 信州	全国ボランティアコーディネーター研究集会 2018 信州 実行委員会	1
3/5	平成 29 年度小地域福祉推進セミナー	栃木県	1

## II-5 交流・ネットワーク推進業務

県域センターとしての機能強化を図るため、研修会等を市町中間支援センター等とともに企画実施するほか、県域団体、中間支援センター、地域協働推進員等との交流を図り、「とちぎ協働推進研究会」等の機会を通じて、関係を強化した。

### (1) 中間支援センター連携推進会議・スタッフ研修会の開催、県内中間支援センターへの訪問

#### ① 【第1回責任者会議】

**趣 旨**：県内中間支援センター間の情報共有、連携強化を図ることを目的に、現場で抱えている課題解決に向けての実務者の会議として、責任者会議を開催する。

**日 時**：平成 29 年 5 月 26 日（金）15:30～17:00

**会 場**：ぼ・ぼ・ら

**参加者**：各中間支援センター等 17 名

**内 容**：・平成 28 年度中間支援センター連携推進会議事業報告

- ・平成29年度中間支援センター連携推進会議事業計画
- ・各センター及び県の今年度事業の概要、重点事項等
- ・特定非営利活動促進法の一部改正
- ・意見交換

**成果と課題**：「中間支援センター未設置市町への支援」や  
 「中間支援センター設置の動き」、「災害ボランティアに関する他セクターとの協力状況」など、貴重な意見交換ができた。  
 構成センターによって業務内容が異なるため課題を共有することがなかなか難しいが、スタッフ間で忌憚なく意見交換することでお互いの切磋琢磨になり、日ごろから気軽に相談できる関係づくりにもつながるため、今後の連携協力に活かしていきたい。



## ②【スタッフ研修会「新人研修】

**趣旨**：互いに学び合いより良い支援につなげることを目的に、スタッフ研修会を実施する。前年実施した中間支援センター訪問により、「中間支援センター新人研修」について課題を感じているセンターが多いことが分かった。中間支援センターの基礎力アップを目的に、本事業を開催する。

**日時**：平成29年6月22日（木）10:00～12:30

**会場**：野木町ボランティア支援センター きらり館

**参加者**：各中間支援センター 計14名

**内容**：講義及びワークショップ「中間支援センターってなあに？スタッフの役割について」、「私の今と未来～中間支援センタースタッフとして」



**成果と課題**：中間支援センタースタッフとして基本的なセンター機能を知ることはもちろんだが、今回は相談し合える仲間づくりを念頭に置いて事業を行った。アイスブレイクや、ワークショップを通して、スタッフ同士の信頼関係も築き上げられたようだ。ワークショップでは「業務」「団体」「情報」などの「覚えることが沢山」や、「業務」と「自らのボランティア活動」のバランスなどの課題を共有した。なりたいスタッフ像では、『「事務処理」ではなく、「意味を理解して仕事をしたい』』や、「信頼され相談されるスタッフになりたい」などの意見があった。また、オプションとして、野木町の煉瓦釜見学ツアーなども行い、地域資源の活用方法なども考えられる機会となった。今回は、県南地域において行ったが、今後は、新人スタッフ等の配置等も鑑みながら、地域別に開催していきたい。

## ③【県内中間支援センターへの訪問】

**趣旨**：「ぼ・ぼ・ら」と県内中間支援センターとの連携を一層強化するため、「ぼ・ぼ・ら」職員が各センターを訪問し、現状及び課題、「ぼ・ぼ・ら」への要望等について意見交換する。

### ア 日光市民活動支援センター訪問

**日時**：平成29年5月30日（火）13:00～14:00

**内容**：平成29年4月1日にリニューアルオープンした日光市民活動支援センターを訪問し、施設を見学するとともに、管理運営の状況、ぼ・ぼ・らへの要望等について意見交換した。

### イ 大田原市生涯学習センター訪問

**日時**：平成30年3月15日（木）10:00～11:15

**内容**：公設公営のセンターである大田原市生涯学習センターを訪問し、施設の管理運営状況について、NPO担当課である政策推進課と施設担当課である生涯学習課と意見交換した。

**計** 2ヶ所

**成果と課題**：市町中間支援センターを直接訪問し、役職員との意見交換を通じて、各センターが抱える課題や現状、所管地域におけるボランティア・NPO活動の動向等を把握することができた。また、顔の見える関係ができたことで、日ごろの情報交換や事業への協力などについて、相談がしやすくなった。今後は、市町中間支援センターと共に事業企画をするなどのことができるよう、より連携を強化していきたい。

## (2) 中間支援センター未設置市町への支援

### ① 【センター設立を検討している市町の情報収集及び提供】

県域センターとして、市町中間支援センターの機能拡充及び設立促進に寄与するため、検討状況の情報収集を行うとともに、センター設置を検討している市からの依頼に応じて、県内市町中間支援センターの概要資料を提供した。今後、運営ノウハウ等について助言いただきたいとのこと。

**成果と課題**：平成30年4月1日付で、那須塩原市がセンターを開設予定であり、県域センターとして、必要に応じて助言や協力をていきたい。また、市町中間支援センターの増加に伴い、県域センターとしての役割をより強化するとともに、市町センターとの役割分担を明確にしていく必要がある。

## (3) 他県の中間支援センターとの交流

**趣旨**：県域センターとして、他県の中間支援センターの情報収集や交流を行うことで、全国的な動向等を把握し、今後のセンターの効果的運営に活かす。

### ① 【中間支援センター現地視察】

栃木県主催「中間支援センター現地視察」に参加し、他県センターの取組み事例を視察した。

**日 時**：平成29年8月31日（火）8:30～16:30

**視察先**：茨城県つくば市民活動センター、茨城県結城市市民活動支援センター

**参加者**：各市町、各中間支援センター等 23名

**内 容**：つくば市民活動センターでは、ニーズに対し敷地面積が少なく苦労が窺えたが、少人数の場合には会議室内をパーテーションで区切るなどアイデアを活かしながら、本来1団体しか使えないスペースで2団体の活動の参加の機会を創出していた。少人数、短時間でのスタッフ勤務(人件費の不足)のため、人材育成には苦労をしているとのことであった。結城市市民活動支援センターでは、元商業施設で運営しており、いかにセンターまで足を運んでもらえるかを標示物の工夫などで対応していた。7名体制で市民活動を支援しており、手厚いサービスが感じられた。今後、民間委託も検討しているとのことであった。

**成果と課題**：限られた条件内でセンター運営を行っているが、条件で悲観することなくアイデアにより、活用する方法や仕組みを作ることが出来ていた。そのようなアイデアを出せる人材育成が重要であると感じた。本県においても、県民及びボランティア・NPO団体の期待にしっかりと応えていくためには、「ぼ・ぼ・ら」スタッフの人材育成と同時に、定着して働く環境づくりも課題である。

### ② 【ふじのくに NPO活動センター現地視察】

静岡県域中間支援センターふじのくにNPO活動センターを訪問し、情報交換を図った。

**日 時**：平成29年9月7日（木）16:00～17:00

**視察先**：静岡県域中間支援センターふじのくにNPO活動センター

**参加者**：ふじのくにNPO活動センター 2名、とちぎ協働デザインリーグ 2名

**成果と課題**：県域中間支援センターの置かれた状況は、静岡県と栃木県の共通するところが多くあった。市町センターの機能が充実しつつある中で、市町センターと県域センターの役割の住み分けを明確にするとともに、県域センターとして特化るべき機能を明確にすることが求められるのは、全国的な流れだと思われる。

#### (4) とちぎ協働推進研究会の開催（資料編 P16～17 参照）

趣旨：地域課題の解決及び社会的価値の創出に向けて、NPO・地域団体・行政・企業等の多様な主体間の協働を推進するための方策を検討することを目的とする。

- ①【第1回】 平成29年5月26日（金）13:30～15:00 ぽ・ぽ・ら
- ②【第2回】 平成29年7月14日（金）13:30～16:00 ぽ・ぽ・ら
- ③【第3回】 平成30年2月6日（火）10:30～14:30 hikari no café 蜂巣小珈店

#### (5) テーマ別ミニサロンの開催（資料編 P18～20 参照）

趣旨：共通するテーマのもとに、意見交換及び交流を通じて、お互いの活動を高め合うことを目的とする。

- ①【第1回】<自然からもらう遊びのヒント>
- ②【第2回】<絶滅危惧種カワガキ再生～里山里川で遊ぶ～>
- ③【第3回】<婚活から見る社会課題>
- ④【第4回】<地域創生と人づくり>

#### (6) 職員派遣

期日	事業名	役割	派遣人数 (名)
29/4/21、8/4	宇都宮市民大学運営協議会	委員	2
4/26	市町NPO・協働担当者会議	事業説明	2
5/22	栃木県コミュニティ協会総会		4
5/16	栃木県住生活支援協議会		1
5/26	災害ボランティアネットワーク会議		1
6/15	JT NPO助成事業成果発表会・助成金交付式		2
6/18、 30/2/9、3/11	栃木市助成事業“とちぎ夢ファーレ”実績報告会、審査会	審査委員	3
7/7	みやシニア活動センターネットワーク会議		1
7/12	小山市市民活動センター運営調整会議	委員	1
7/13	栃木県社会貢献活動人材ネットワーク会議	構成員	1
7/19	宇都宮大学地域デザイン科学部 地域課題専門委員会	委員	1
8/12	高校生アイデア会議		1
8/28	栃木県社会貢献活動促進懇談会		3
9/7	とちぎUIJターン促進協議会	構成員	1
9/14	輝く“とちぎ”づくり表彰選考委員会	委員	1
9/17、12/8 30/3/3	とちぎコミュニティ基金助成事業審査、贈呈式 (たかはら子ども未来基金・花王ハートポケットクラブ)		3
11/25	三島地区コミュニティまちづくり研修会	事業説明	1
12/20	宇都宮市まちづくりセンター貸しオフィス審査会	審査委員	1
30/1/24	宇都宮市みんなでまちづくり会議	委員	1
2/11	真岡市市民活動推進センター開設10周年記念事業		3
2/17	地域協働推進員フォローアップ講座		2
3/6	栃木県経済同友会表彰選考委員会	委員	1

#### (7) イベント等への参加による広報・宣伝活動（理解啓発促進イベント）

期日	イベント名・展示内容	会場
29/6/17	県民の日記念イベント	栃木県庁昭和館3階多目的室3
10/30	とちぎ協働推進大会2017	栃木県庁東館4階講堂
11/24～12/1	市民活動支援センターパネル展示	栃木県庁1階県政展示コーナー

## ◇県民の日記念イベント



## ◇市民活動支援センターパネル展示



## II-6 その他

### (1) 寄附文化醸成のための活動への協力

寄附文化醸成のため、県民が集う「県民の日」において、「ぼ・ぼ・ら」ブースを出展。ブース内にて、「輝くとちぎの人づくり推進基金」募金箱を設置し、普及啓発を行った。今後は、多様な形の寄附の普及啓発にも注力していきたい。特に、「寄附」が大きな要件となる、認定NPO法人の取得支援なども通じて、寄附文化の醸成に努めたい。

### (2) 災害時初動対応の検討

#### ①九州北部を中心とした豪雨災害及び秋田県における豪雨被害に関する対応

平成29年7月に発生した九州北部を中心とした豪雨災害及び秋田県における豪雨被害に関して、下記の対応を行った。

ア 相談対応（随時）

イ 災害関連情報収集提供

センターHP、ブログ、フェイスブック、メルマガを活用した災害関連情報の発信

- ・災害ボランティアセンター立上げ状況、ボランティア募集情報一覧の作成・提供
- ・全国社会福祉協議会・栃木県社会福祉協議会からの災害情報をHP等にて情報発信
- ・支援金、活動支援金等の情報収集・提供



ウ 九州北部を中心とした豪雨災害募金箱の設置及び送金

災害発生後から平成29年8月25日まで、センター内に募金箱を設置して義援金を募り、集まった義援金を日本赤十字社あて送金した。（総額13,967円）

#### ②災害ボランティアセンター運営研修会への参加

目的：これから災害ボランティアセンター運営に必要となる視点や体制について考え、より効果的な支援活動及び「災害にも強い福祉のまちづくり」推進に資する。

日 時：平成29年12月18日（月）9:30～12:00

場 所：とちぎ福祉プラザ 福祉研修室

主 催：社会福祉法人 栃木県社会福祉協議会

内 容：災害ボランティアセンターの運営体制や支援に必要な視点について

成果と課題：地域住民が、その地域の災害の危険性を理解し、災害初動時は地域住民同士での共助が必要である。また、災害ボランティアセンター運営には、日頃から、市町、社会福祉協議会、中間支援センターなど、地域に関わる関係機関が集い、災害時における対応を確認しておくこと、地域で災害を防ぐ「防災」が重要である。県域センターとしては、災害時に円滑に対応できるよう、中間支援センター連携推進会議等を通じて、社会福祉協議会や各市町中間支援センターとの連携を強化していきたい。

## NPO マネジメントセミナー

### ボランティアコーディネーション力アップセミナー

#### 1 趣旨

ボランティアを受け入れる団体から、受け入れ方法や定着の仕方、やりがいのある活動の方法などのボランティアに関する様々な課題の声を耳にする。また、ボランティア活動の援助を行う団体や中間支援センターにとって、ボランティアの募集側と応募側のニーズとシーズをつなぎ、有意義なボランティア活動をコーディネーションすることが求められる。このような、ボランティア受入れ側（団体・施設）や送り出し側（活動支援者・中間支援センター）が抱えるニーズに対し、ボランティアマネジメントやコーディネーションの基本的知識や技術を学び、魅力的なプログラムづくりや有意義なボランティア活動のコーディネーション力の向上を図ることで、ボランティアの力をより効果的に団体運営や地域活動に活かすためのコツを学んでいただくことを目的にセミナーを実施する。

#### 2 概要

日 時：平成29年7月26日（水）13:30～16:30

会 場：ぼ・ぼ・ら

講 師：宇都宮大学特任助教 土崎 雄祐氏

ハーブ＆カフェ FUTAMI 二見 令子氏

参加者：NPO、中間支援センタースタッフ 17名、

事務局5名

#### 内 容：

①なぜNPOはボランティアを必要とするの？

なぜ、今日ここに来たのか、どんなボランティアがいるかについて参加者同士で意見交換をした後、NPOとボランティアの関係についてレクチャーを行った。

②NPOにおけるボランティアコーディネーションとは？

ボランティアコーディネーションの基礎を学んだ後、講師より事例紹介として子ども食堂でのようなボランティアコーディネーションを行っているかを紹介していただいた。

③今後どのようにボランティアと向き合ったらよいか？

普段どのようにボランティアと向き合っているかについての意見交換を行い、ボランティアと向き合う時の課題について参加者同士でアドバイスし合い、テーマを絞り議論を深めた。

④これからどのようにボランティアと向き合っていきたいか？

参加者一人ひとりがこれからどのようにボランティアと向き合っていきたいかについて発表を行った。



#### 3 成果と課題

ボランティアコーディネーションを理解するために、講師より「ボランティアをどう受け入れるか心構えはできていますか？」という問い合わせがなされ、受け入れ側に求められることとして①目的の明確化、②一人ひとりと全体を見る気配り、③何をどのようにやつたらよいかのプログラムづくり、④一緒に夢をかなえる仲間という意識、の4点が大切だということの気づきを得ていただいた。また、ボランティアコーディネーションの大切さについて現場視点で伝えるなど、非常にわかりやすい講義であった。これからどのようにボランティアと向き合っていきたいかについての参加者一人ひとりの発表では、受け入れ側の立場からは「目的を明確にする」、「楽しく参加してもらい、笑って終われるボランティアを目指す」、「持ち帰って、メンバー皆で何をやってもらえそうか話し合ってみる」などの意見が出され、つなぎ手の立場からは「受け入れ側の思いや目的、要望等を具体的にしっかり聞き取つてつなげる」、「ボランティアと向き合って、わかる言葉で一緒に支える」、「和やかな雰囲気づくりを心がける」などの意見が出され、すぐにでも実践に活かしていくだけそうな前向きな意見が多く見られた。参加者の今後の活動が、「ボランティアの方々とともに作り出し、皆で一緒に夢を叶える」ような活動につながることを期待したい。

## とちぎ協働推進研究会

### 1 趣 旨

多様な主体間（県民、ボランティア、NPO、地域団体、各種団体、企業、教育機関、行政等）の協働を推進するための方策を検討することにより、地域課題の解決及び社会的価値の創出に寄与することを目的とする。



### 2 概 要

#### (1) 【第1回とちぎ協働推進研究会】

日 時：平成 29 年 5 月 26 日（金）13:30～15:00

場 所：ぼ・ぼ・ら

参加者：21 名

内 容：1. とちぎ協働推進研究会ふりかえり

2. 規約・主な活動内容及び参加団体（案）について

3. 29 年度とちぎ協働推進研究会企画（案）について

**成果と課題：**本研究会の前身は、平成 19 年度に設置された「とちぎ社会貢献活動システム研究会」であり、そこから具体的な活動（とちぎコミュニティファンド）が誕生したため、平成 20 年度からは、「とちぎ社会貢献活動推進研究会」として再スタートした。平成 22 年度に「とちぎ協働推進研究会（参加 20 団体）」と名称を改めてから 7 年の間に、「企業と NPO・ボランティアによる、社会貢献活動を主なテーマにした事例発表」、「社会貢献活動事例や協働事例の現場見学」、「個別企業・個別 NPO をも巻き込んだ『企業と NPO、出会いと対話の交流会』」等を実施し、研究会内部はもとより企業と NPO 等との相互理解を深め、参加団体も 33 団体に増えた。

以上のような経緯を踏まえつつ未来を見据え、今後の研究会のあり方について、改めて議論したところ、研究会参加担当者の異動がある場合は、これまでの成果を引き継いで次に進むことの難しさを感じる新規担当者の切実な課題が浮き彫りになった。

そのような課題も考慮しながら、研究会の目的の見直し及び研究会メンバーの協働推進への関わりについて忌憚のない意見交換をし、研究会の規約（案）について承認を得ることができた。

これまで、協働について参加メンバーの理解と関心を高めてきたが、協働に対する捉え方は、団体ごとに多様であることを改めて確認・共有することができた。

今年度の研究会企画については概ね了解を得たが、いただいた意見について事務局でよく咀嚼し、参加しやすく意欲をもちやすい研究会としていくことが求められる。

#### (2) 【第2回とちぎ協働推進研究会】

日 時：平成 29 年 7 月 14 日（金）13:00～15:00

場 所：ぼ・ぼ・ら

参加者：23 名

内 容：1. 協働事例紹介

2. kyodo カフェ（意見交換・交流）



テーマ：企業・NPO・地域に利益をもたらす協働 ～新しいビジネスパートナーを見出すチカラ～  
ゲストスピーカー：（一社）みんなのとしょかん 代表 川端秀明氏

#### 地方の企業が抱える課題に対し、協働でビジネスチャンスを

現在は、同じ様な商品が数多く、差別化が難しい。ネットにより、簡単に購入できる。大手企業の商品は価格も安い。ブームが起きても廃れるのも早い等、地方の中小企業は非常に厳しい状況にある。

そんな中、地域の企業だからこそ、地域の問題や地域の弱さを補完する存在になることで、地域に必要な企業になれる。この企業はあった方がいい、と思ってもらえるかどうかは非常に重要なポイント。我が社の場合は、みんなのとしょかんでの協働事業があるから黒字になっていると言える。

### 企業・NPO・地域の協働のコツ

小さな企業やNPOが単体で、利益の追求・地域社会への貢献・社会問題の解決、その全てを行うのは無理。ゆえに、やらないことを決める（劣後順位）ことが大切→その道のプロに頼み、連携を図ることで、それぞれのパフォーマンスを上げる。それぞれの得意なことをつなげて、相乗効果が得られる協働を考える。つまり、新しいビジネスパートナーを見出すチカラをつけていくということ。そうして、企業・NPO・地域、三方に利益をもたらす協働が実現されていく！

**成果と課題：**ゲストスピーカーの事例を基に、「なぜ協働するのか？そこにはどんなメリットがあるのか、課題は何か」等を具体的に知り、協働への理解促進が図られた。

ゲストスピーカーへの質問が活発に出て、丁寧な回答をいただくことができた。ゲストスピーカーからは、みんなのとしょかんへの課題や提案も出してほしいとの要望があり、新企画「kyodo カフェ（ワークショップ）」が活発に展開された。メンバー以外にも「栃木県地域協働推進員」4名の参加があり、初めて参加する方との交流ができた。本事業のまとめについては、これまで郵送していたが、今回からゲストスピーカー及び参加者あてメールにての報告でも良いという意見をいただいた。

### (3) 【第3回とちぎ協働推進研究会】

日 時：平成30年2月6日（火）10:30～14:30

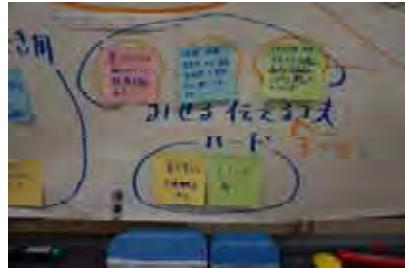
場 所：hikari no café 蜂巣小珈琲店（大田原市蜂巣）

参加者：20名

内 容：1. 施設見学 （案内） hikari no café 蜂巣小珈琲店 施設長 川上聖子氏  
 2. kyodo カフェ～hikari no café 課題解決の秘訣を探る～  
 (1) hikari no café 蜂巣小珈琲店の紹介 施設長 川上聖子氏  
 (2) 成功の秘訣を探る質問タイム  
 (3) 深めるラウンド

#### ◆◆◆kyodo カフェ・深めるラウンドのテーマ及び観点◆◆◆

A：廃校活用	B：障がい者の就労支援	C：ビジネス
①いいね！ポイント 成功の秘訣	①いいね！ポイント 成功の秘訣	①いいね！ポイント 成功の秘訣
②メリット	②メリット	②ビジネスが、地域へどのような効果をもたらしているか
卒業生及び地域のメリット	障がい者及び地域のメリット	③もっとこうしたらいい！
③もっとこうしたらいい！	③もっとこうしたらいい！	④課題または質問
④課題または質問	④課題または質問	④課題または質問



**成果と課題：**今年度は、次の新しい取組を実施した。  
 ①栃木県地域協働推進員等の参加と交流。  
 ②ワークショップ「kyodo カフェ」：第2回研究会では、「みんなのとしょかん」における優良な協働事例を取上げ、ステイクホルダーへの貢献を継続させていくには、ビジネスの観点がいかに重要であるか「kyodo カフェ」にて検討することができた。  
 ③メールでの研究会報告：メールの使用が参加者から提案され実施した。  
 ④現地視察+「kyodo カフェ・深めるラウンド」：第3回研究会では、大田原市の就労支援施設にて研究会を実施。「連携・協働」の提案等が検討され「協働」に対する意識の高まりが見られた。  
 ⑤ふりかえりシートを活用し、研究会の成果を各自確認した。今後も協働の推進に向けては、さらなる創意工夫とチャレンジが求められる。

## テーマ別ミニサロン

### 1 趣 旨

共通するテーマのもとに、意見交換及び交流を通じて、お互いの活動を高め合うことを目的とする。

### 2 概 要（全4回）

#### 【第1回】

日 時：平成29年8月5日（土）13:30～16:00

会 場：MODO工房（那須塩原市）

講 師：白鷗大学名誉教授、とちぎ協働デザイソリーグ

理事 粕谷 圭司氏

参加者：16名（地域おこし協力隊、NPO等）

テマ：自然からもらう遊びのヒント



内 容：①自然豊かな那須塩原市青木に位置する講師

のアトリエ「MODO工房」において、粘土による工芸体験（土鈴及び自由作品の製作）

②全体での意見交換：それぞれのNPOが自身の活動について紹介し、課題や展望等を共有

③個々の意見交換：参加団体や講師との交流

④まとめ



成果と課題：高齢者福祉施設、障害者福祉施設、地域おこし協力隊、NPO法人、観光協会の方々が集い、互いの活動を紹介し合った。

縁あふれる森の中での創作活動により、参加者の自由な感性を引き出すことが出来た。また、異なる地域の地域おこし協力隊員同士が情報交換をする場となり、新たな出会いの場を提供することができた。

作品の完成には、絵付け・焼付けの工程が必要となるため、参加者それぞれが、再度、再々度とアトリエを訪ね、作品を完成させた。講師も、今後、このアトリエが人と地域の拠点となることを期待しており、新たな展開に協力していきたい。

#### 【第2回】

日 時：平成29年10月20日（金）13:30～16:00

会 場：ぼ・ぼ・ら

講 師：一般社団法人とちぎ市民協働研究会理事、

とちぎ協働デザイソリーグ 理事 赤羽 幸雄氏

参加者：9名（個人、NPO、行政等）

テマ：絶滅危惧種カワガキ再生～里山里川で遊ぶ～



内 容：①参加者の活動紹介を含めた自己紹介（環境系NPOや子どもの遊びNPO、個人、行政が参加）

②川の過去と現状についての意見交換（遊び、教育、学び、地域、生物多様性、災害等）

③NPOの活動資金のための助成金の紹介・質問

④まとめ



**成果と課題：**社会や時代の変化とともに、子どもの遊びも変わってきており、近年、子どもの遊びは、テレビゲームなど屋内の遊びが増えている。数年前までの子どもは、山・川・海など、自然の中で遊び、地域の中で自然と触れ合うことで、いろいろな経験や学びがあった。

テーマをもとに、子どもの頃に川で遊んでいた子ども（カワガキ）や川と関わりのあるNPOなどが参加し、昔カワガキだった頃を思い出しながら、川に対する思い出や川から学んだことなど、活発な意見交換や

交流ができた。

子どものころ遊んだ川は、大きな環境教育の場であったことは間違いない、学校では教えてくれないことを「川」から教わることができたとの意見があった。川で魚を釣ることは、その背景にある魚を釣るために水の豊かな環境、釣り道具、エサなどを考える必要がある。また、川で泳ぐには、川の流れ、深さ、危険性など、川の恐さも考えねばならない。近年、ゲリラ豪雨など、急激な増水による川の事故も増加しており、川遊びを知らない親の世代に注意喚起をすることも大切であるという意見もあった。子どもは川で遊ぶことにより、地域の人や自然と触れ合うことができ、経験という大きな思い出により、人格を成長させることができる。川とは、そんな貴重な場所である。参加団体からは、「来年の活動に新たなヒントを得た。」という声も聞かれ、次の活動へのきっかけにもなったようである。今後、川に行き、現場で学ぶことなども有意義だと思われる。

### 【第3回】

日 時：平成29年11月18日(土)13:30～16:00

会 場：ぼ・ぼ・ら

講 師：宇都宮共和大学教授、とちぎ協働デザイリーグ  
理事 和田 佐英子氏

参加者：10名 (NPO、行政等)

テマ：婚活から見る社会課題



内 容：  
 ①宇都宮共和大学の「和田ゼミ」で行った調査報告  
 ②活動紹介を含めた自己紹介と、互いの活動に関する質問や意見交換  
 ③行政提供の詳細な資料による説明、質問  
 ④まとめ



**成果と課題：**結婚は、そもそも個人の問題であるが、個人の選択に委ねた結果、超晩婚化時代を迎えている。平成27年の国勢調査の結果、栃木県の30～44才の独身男性数が、独身女性数より36%超過し、この割合は全国1位となっている。つまり独身女性10人に対し、独身男性が16人いる、という実態である（うつみや市政研究センター発行：みや研通信より）。このような社会課題に対し、どう取り組むべきか。宇都宮共和大学では、和田教授がゼミ2年生とともに婚活支援策を模索・研究した経緯があり、晩婚化、非婚化に突き進む現

代の課題にどう取り組むかをテーマとした。

柔らかなテーマのようでありながら、実は深刻な社会課題であると、話し合うなかで実感する方が

多かった。お葬式は葬儀場で、結婚式は二人だけで、というように、近所の結び付きが弱まり、子どもを預け合う仲間関係も減り、結婚を取り持つ「おせっかいな人」が減っている。また、若者の結婚観が変わり、結婚の先延ばしも増えている。離婚率も高まり、そのことが「子どもの貧困」という大きな社会課題を生む一因にもなっている。

「少子化の現状（栃木県こども政策課作成）」、「とちぎ結婚支援センターパンフレット（とちぎ未来クラブ作成）」等の資料から見える深刻な実態を、参加者がそれぞれの活動と照らし合わせ、活発な意見交換が行われ、参加者それぞれの立場からの意見が聞けたことは大きな成果であった。安心して結婚・子育てのできる環境づくりが必要である。

#### 【第4回】

日 時：平成 29 年 12 月 7 日（木）13:30～16:00

会 場：ぼ・ぼ・ら

講 師：一般社団法人とちぎ市民協働研究会代表理事、  
とちぎ協働デザイソリーグ 理事 廣瀬 隆人氏

参加者：9 名（企業、NPO、個人等）

テーマ：地域創生と人づくり

- 内 容：
- ①参加者の活動紹介を含めた自己紹介  
(まちづくり、福祉関係 NPO 等)
  - ②テーマについて自由に意見交換
  - ③意見交換した学びや感想を各自発表
  - ④まとめ



**成果と課題：**地域創生は、東京一極集中を是正し、地方の人口減少に歯止めをかけ、日本全体の活力を上げることを目的としているが、実際に地域が活力を創るにはどうしたら良いのか？また、人口減少に歯止めをかけ、人を育てていくにはどうしたらよいのか？など、参加者とともに考える機会としてテーマを掲げた。

地域創生と人づくりのテーマについて、参加者それぞれの思いや考えを自由に意見交換できる場となり、「大変学びの多いサロンで良かった。」との声が多かった。地域創生の背景に、大きな課題として人口減少対策がある。

地域の人口が減少することによる生産年齢人口の減少、高齢化、所得の減少、経済の縮小、働き手不足、それらが引き起こすコミュニティの崩壊など、様々な社会問題が起きてくる。こうした課題に対して、地域創生にどう取り組むのか。日本の人口を増やすことは簡単ではないが、人口を減らさないよう努力することはできる。

また、地域創生のなかで一番問題なのは、人材の枯渇である。特に、リーダーシップをとれる人材が少ない。組織マネジメントできる人材をリーダーとするなど、地域を変えていく力が必要である。そのためにも、高校生など若者の力をまちづくりに取り入れ、そのアイディアを活かし、若者が発言できる場や実際に活動する場を創出し、まちづくりをしていくことが重要である。

とちぎボランティア NPO センター ぼ・ば・ら  
平成 29 年度事業報告書

企画・編集：とちぎ協働デザインリーグ  
発 行：とちぎボランティア NPO センター ぼ・ば・ら  
〒320-0032 宇都宮市昭和 2-2-7  
TEL：028-623-3455  
FAX：028-623-3465  
URL：<https://www.tochigi-vnpo.net>